



森ボラ 通信

第34号 2005年3月20日発行

北海道森林ボランティア協会

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 Fax:241-8308

E-mail:h-shinrin-v@indigo.plala.or.jp

URL:<http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

公開シンポジウムのお報せ

テーマ：「自然再生・森林復元の可能性と技法」

基調講演：渡邊定元（元東京大学北海道演習林長・NPO 富士山自然の森づくり理事長）

「森林の劣化と再生、そして持続的森林管理」

日時：3月28日（月）13：30～17：00

場所：北海道大学学術交流会館

※入場無料／われわれの活動に参考になる問題です。多くの会員の聴講を期待します。

定期総会のお報せ

日時：4月20日 13：30より

場所：札幌市民会館第一会議室（北大通西1）

議案： 1号 定款改訂（年会費関連）

2号 役員改選

3号 2004事業・決算報告、2005事業計画・予算

特記：総会議案は、総会前に別便にて送付します。

★3/26 澄川参加者全員公共交通機関利用願います

3月26日（土）は清掃工場休業につき駐車場ないため、参加者は公共交通機関にて集合ください。

澄川バス時刻

往路 真駒内駅発 8：40→豊平清掃事務所着 9：00

復路 豊平清掃事務所発 16：20→真駒内駅着 16：40

※作業内容はホダ木とりです。まだ残雪が多い時期です。カンジキやスノーシューをご用意ください。

西野夫妻4月に帰国

JAICA からインドネシアに派遣され、牛乳生産に関する技術指導に従事されていた西野さんが、2年間の任期を終え4月7日に札幌に帰ってきます。お二人とも帰国後の活動の再開を心待ちにされているとのこと。大変嬉しい知らせです。帰国を待つ、話を聞く会を企画します。

木工

3月18日（金）参加16名、この日の木工は佐藤さんによる糸ノコ講習会でスタートしました。鮮やかな糸ノコ捌きと一緒に唸った後、高野（圭）さんが初めての糸ノコにチャレンジ。いきなり分厚い木に挑む大胆さと集中力は、再び皆を唸らせました。糸ノコの他に万力と丸ノコも登場し、木工の可能性は一気に広がりました。アイデアは溢れ機械はフル回転。何度かヒューズがとんだほどです。フリーマーケットの出店について、次回話し合ひましょう。

ヒューズがとぶほどの皆の頑張りには“モツ鍋”パワーの効果です。杉本（茂）さんがご自慢の腕を振るってくださいました。（柴田記）

斎藤リンゴ園支援特別チームを編成します

来年度のリンゴ園支援について、技術指導の都合上人数を限定したいとの斎藤さんの要望を受け、3月17日（木）リンゴ園に参加回数の多い会員を主にして話し合いを行い、以下の結論を確認しました。

- 1 全員アンケートにより参加意思を確認する。
- 2 参加意思表示のあった会員で支援特別チームを編成する。
- 3 チームを3班（火曜日班、金曜日班、どちらとも決められない班）に分け、各班の班長を決める。
- 4 3班間および斎藤オーナーとの調整は虎谷さんが行う。
- 5 状況によっては、チーム外の会員にも支援を要請する。

日本財団より助成金 30 万円

3月17日、日本財団より助成金決定通知がとどきました。事業名「森林・竹林等整備にかかる機材整備」です。

3 月 定例幹事会

3月14日（月）13：30より、ラルズプラザ8階会議室で行いました。

- 1 定期総会（前記のとおり）
 - 2 幹事希望者を改めて募集し、総会までに確定する。
 - 3 年間スケジュール調整：国有林関係の野幌森林公園、屯田防風林は確定すれば優先する。
 - 4 リンゴ園支援特別チーム編成と運営について緊急会議召集（17日）する。
 - 5 屋久島ツアーは参加者が最小催行人数に満たないため、会としての催行はしない。
 - 6 札幌市都市環境緑地17年度計画を3月末日までに市に提出する。西野第2については文書での承認をうる。
 - 7 定山溪ゴルフ場有償作業の参加希望者を募る。
 - 8 3月26日（土）の澄川参加者は全員地下鉄+バスとする。大雪のため用具運搬車（3台）以外の車は駐車できない。
 - 9 当別ふくろうの森は春、秋の学生演習は継続するが、それ以外は見合わせる。
- 出席者：加治（豊）、鎌田、酒井、芝、湊、高野、村上、渡部

定山溪ゴルフ場との打合せ

3月11日（金）酒井さん、加治さん、高野の3名で大場支配人と打合せをしました。ゴルフ場部会の意向を受けて現場への反映を確認しあったものです。基本的には承認が出てGOとなりました。

3 月 木工の日

3月10日（木）参加15名。常連者達はそれぞれの作品に挑戦しました。他には巣箱63個を澄川他用に準備しました。紐をつけて設置するばかりになっていますが、一部釘のあまいものや隙間の目立つものなどがあります。次回18日木工の日に手直しをやりましょう。

3 月 セミナー

3月4日（金）参加32名。前半は「森の思想が人類を救う」と題して、湊さんが社会科学の視点で俯瞰した森林観を話しました。人間の根本思想にたち返り、文明の変遷を辿って見たとき、21世紀の危機を回避する鍵は“人間は自然の一員として生かされている”という『森の思想』であるとの話の最後に、「あなたにとって森林とは何ですか？」との問いかけがありました。恐らく多くの会員が体の動くままに活動を続けてきたと思います。しかし、時には自分の気持ちを振りかえり整理することは、その後の生き方（活

動)の自信にもつながるでしょう。基本でありながら、新鮮味ある面白いお話でした。

後半は、高野さんが4月のツアーに向けて屋久島を紹介。高野さんは20年ほど前に調査で屋久島に滞在し、道なき奥地まで分け入った経験があります。臨場感あふれる体験談をまじえながらの熱い語り「もう行ったような気分」(芝さん談)。ツアー参加者の期待はますます高まったことでしょう。(柴田記)
※残念ながら参加希望者が15人を割り込み、今年のツアーは中止となりました。来年に期待です。

定山溪ゴルフ場に見積提示

3月1日(火)酒井さん、加治さんおよび高野の3人で、札幌事務所を訪問し、見積(単位作業当たり)を提示しました。2~3の他の見積と比較されているようですが、見通しはO・Kのニュアンスでした。

森づくりネットワークの集いに出展

2月27日(日)、道庁と森林管理局の共催による「道民森づくりネットワークの集い」がかでる2・7で行われ、ポスターセッションに出展しました。この催しは、森林をフィールドに活動する人々の交流の場として毎年開催されているイベントで、当協会は昨年引き続き2回目の参加でした。ポスターセッションは出展者が割り当てられたブース上で活動をアピールするもので、およそ20団体が出展。展示方法には様々な工夫やアイデアが見られました。

今回の当協会のポスターは活動概要のほかに、台風18号の風倒木処理を巡る活動を前面にアピール。また、木材の活用法について来場者に問いかけました。ポスターは柴田が担当。周囲には杉本則さんの人形たち、加治豊実さんの葉っぱの標本、高野圭子さんのトレイ、酒井さんの原木巣箱が配置され、来場者の興味を引くインパクトある展示空間となりました。

他団体の展示には今後の活動の参考にもなるヒントがあり、交流では今後の協働の可能性も見える有意義な参加機会となりました。「真駒内・芸術の森緑の回廊基金」の新田事務局長からは、澄川の沢でのホテルの目撃情報がありました。となれば、今後の整備方法にも配慮が必要です。まずは今夏、ホテルの生息を確認したいものです。(柴田記)

有明小学校スキー遠足に同行



2月25日(金)参加15名。寒さが身にこたえる朝、しかし空は快晴で絶好のスキー日和です。協会員はスキー・かんじき・スノーシューと思いつきのスタイルで、準備万端です。午前8:50小学校玄関前にて出発の集い。教頭先生や生徒代表の決意表明があり、協会からは山岸が挨拶をさせていただきました。

9時過ぎ、『頑張るぞー!おー!』の元気な掛け声と共に出発です。全校生徒(96名)に先生方、協会員、数人の保護者のお母さん達も一緒になって、大行進です。一步山に入ると、昼食地点まではほとんど上り坂です。協会員は低学年と一緒に上りました。皆にぎやかに、そして励ましあいながら一步一步進んでいきます。子供たちは日々鍛えていることから、大人顔負けの腕前(脚前?)で、どの子も自信がみなぎっているように感じられました。また先生方との信頼関係も固く、子供らしい無邪気さを残しつつもずいぶん自立している生徒が多いことに感銘を受けました。

午前11時、汗をかきながら上り坂終了です。天気は無風の快晴。ここから気持ちのいい南斜面を下ればお待ちかねの昼食です。しかしエッジの効かないクロカンスキーで斜面を降りるのは、ジェットコースターのようにスリル満点。子供たちの歓声が響きます。前につんのめったり、各々面白おかしく転びながら滑り降りました。その後は楽しみにしていたお弁当を広げました。またこの日は1年生のまいちゃん・きき君のお誕生日で、恥ずかしそうにしながらも一緒に写真に収まってくれました。

協会員はここで子供たちと一旦お別れして、巣箱設置に向かいます。「巣穴が下に向くように、木が傾いている方へ掛ける」という高野事務局長のアドバイスを受けて、木を選択しながら設置しました。設置した後は「ちゃんと鳥が来てくれますように」との願いを込めて、バードコールをキュッキュと鳴らしておまじない。おまじないが効くといいですね。と、巣箱設置が終わるころ、子供たちの歓声が聞こえてきました。下りの最後はなかなかの急斜面で、大人でもコントロールが難しいほどです。6年生が要所要所に待機して、衝突や転落がないよう下級生の面倒をよく見ていました。『大丈夫か』『すぐ起きて端に寄って』。その真剣な態度に、またもや感銘を受けました。全員が兄弟のように助け合い、信頼し、自立している……。私は以前関わっていた環境教育の仕事で、多くの小学生と森の中で遊んだ経験がありますが、こんなに立派な小学生は初めてで、教育によってこんなにも違うものかと驚きを隠せません。有明小学校の実践している教育に感心し、そして身近な自然の大切さを再確認しました。この日は久しぶりに自然の中で思い切り楽しませてもらいました。冬の森って、どうしてこんなに楽しいのでしょうか。雪が解けたらまた有明小学校と交流できればいいなあと思いながら帰路に着きました。(山岸記)



木工

2月23日(水) 参加18名。二日後の設置に向け、手直しが必要な巣箱の最終調整をしました。デザインや設置方法を向上させるべく、今後鳥の出入り状況、巣立ち状況を調査し、掃除などのメンテナンスも行いましょう。

◆都市環境緑地に於ける活動を顧みて◆

2002年6月に発足した北海道森林ボランティア協会が最初に関わったのが札幌市環境緑地(有明第二と澄川)であり、それから3シーズンを終えた。その結果、当初決めたコンセプト(ボランティア活動による森林の活性化)に沿った成果を、協会員と対象森林の双方であげることができたと考える。

まず協会員側からみて、ボランティア精神に則った森林整備を通じての社会貢献とその整備のための基礎的な技術修得を少なからず具現することができた。ここで特筆すべきは、危険が多いとされる森林作業を無事故でおこなっている事である。

次に森林側からみて、森林の活性化、資源の有効利用、人との共生を目指す森として第一段階の整備ができたと思われる。今後とも、人が森林に関わる程度は、森林を改革するのではなく、潜在能力を引き出す手助けにとどめる謙虚な姿勢で臨みたい。

今後は、さらなる森林の活性化と樹種の多様化をめざして、天然更新を促す受光伐的な取り扱いによる樹下侵入広葉樹の成長を促がし、旺盛で強固な針広混交複層林、ならびに広葉樹林の育成を図りたい。これら森林の管理には、さらなる遊歩道の設置も必要と考えている。その結果、数ある森林の公益的機能でも都市近郊林が具備すべき機能である広く市民が憩え、学童・生徒が学べる森へと展開できることを目指したい。

今、我々協会員は放置された森林の活性化を通じて、地球温暖化阻止にいささかでも貢献できたと自負している。また、上に向かって墮落することのないボランティア精神、人にとって森林の意義、ならびに森林整備に必要な基礎的技術を醸成しつつある。

改めて、このようなボランティア活動に適した森林を、特別な条件を付さないで提供していただいた札幌市に感謝したい。

昨今、ボランティアの社会的貢献の比重度が急増している。行政側も活動の場の提供だけでなく、ボランティア活動の健全な育成・維持につながる施策をお願いしたい。

平成17年3月
北海道森林ボランティア協会・代表 農学博士 湊 克之